

## 局幹部(労働基準部長)が、安全パトロール！

～ 死亡災害が増加している製造業に  
安全衛生活動の総点検の実施を呼び掛け ～

令和元年6月21日



作業の概要を確認する細江労働基準部長(左側)

茨城労働局(局長 福元俊成)は、5月以降死亡災害が増加している状況に歯止めをかけるため、局幹部(細江労働基準部長)による安全パトロールを実施しました。

6月21日、茨城労働局と筑西労働基準監督署は、筑西市で配電、通信線、アンテナ用などのコンクリート製ポールを製造する工場の安全パトロールを実施しました。

パトロールには、細江労働基準部長及び渡邊労働基準監督署長らが出席し、工場内の安全衛生管理の状況や機械設備による「はさまれ・巻き込まれ災害」防止対策を中心にパトロールを実施しました。

パトロール実施後、細江労働基準部長より「5月以降、製造現場では機械の点検、清

掃の非定常作業時に機械の可動部分に身体をはさまれる「はさまれ・巻き込まれ災害」などが増加しているため、経営トップを中心に職場の安全衛生活動の総点検を実施し、「危険ゼロ」を目指した日々の安全活動の取組と熱中症予防対策の徹底」をお願いしました。

6月27日、茨城労働局と日立労働基準監督署は、日立市内で産業用ケーブル等を製造する工場の安全パトロールを実施しました。

パトロールには、細江労働基準部長及び小室労働基準監督署長らが出席し、工場内の生産設備に対する安全対策が適切に行われているかなどを確認しました。

パトロール実施後、細江労働基準部長は、「経営トップを中心に工夫して展開している安全カバーやエリアセンサー及び立て看板等の設置などの継続した取組と熱中症予防対策の徹底」をお願いしました。



設備等の概要を確認する細江労働基準部長(左側)